



ご来園の皆様への感染症予防のために

- ◆ ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆ ご入園の際は、体温確認させていただきます。
- ◆ 園内では、マスク等を着用し、人との距離の確保をお願いします。
※ 人との距離を十分に取ったうえで、適宜マスクを外すなどの休憩をとり熱中症の予防を心がけてください。
- ◆ 未来くん広場(遊具・きのこ文庫)を閉鎖、観覧温室内の昼夜逆転室を閉室しています。
- ◆ 水琴窟の使用を禁止しています。

ご理解ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

第5回 水草展

○期間：8月28日(金)～9月27日(日)

○場所：植物園会館北側屋外ソテツ周辺

○内容：様々な水草を鉢で屋外展示

◆9/27(日) 水草展開連観覧会 ※雨天中止

植物園会館北側屋外ソテツ周辺 13:30～15:00

(当日会場受付 13:00～、植物園会館玄関前)

内容：「水草展を楽しもう！」

担当職員が、水草展の会場を巡りながら、植物を解説し、ご案内します

第59回 植物作品展

○期間：9月17日(木)～9月27日(日)

○場所：植物園会館2階多目的室

○内容：児童・生徒が作成した植物の標本や研究作品などを展示

緑化ポスターコンクール

○期間：9月26日(土)～9月27日(日)

○場所：植物会館1階展示室

○内容：緑化推進啓発のために児童等が作成したポスターのコンクール入賞作品の展示

アートボトル講習会(7) 募集中!!

10/8(木) 経験者の部 10:00～12:00

初心者の部 13:30～15:30

★山野草アートボトル同好会が作り方を指導 ★定員：各10名

★参加費：3,000円(別途、入園料が必要)

★事前申込：往復ハガキに講習会名、受講希望の回・部、住所、氏名、電話番号を明記 ★不切：10/6(火) ★会場：植物園会館2階多目的室

第5回 インテリア・プランツ展 (販売あり)

○期間：10月9日(金)～10月13日(火)

○場所：観覧温室特別展示室

○内容：室内で楽しめる多肉植物、観葉植物等を展示



「植物園ガイド」が植物案内!

～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!～

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは1時間程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート!

New!! 「技術課長のてくてくさんぽ」

9月27日(日) 何処を歩くかはお楽しみ!

植物園会館前集合：午後2時スタート!

スマホdeガイド



QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! 「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察!

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時

■ 電話075-701-0141で



※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!

大人1000円 高校生750円

・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。

※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」
2020. 9. 25
20号

⑫ ファレノプシス・ギガンテア
ラン科。インドネシアのボルネオ島固有種。贈答に利用されるコチョウランと同じ仲間。属名のファレノプシスは「ガのような」という意味で、本属の花の外観に由来する。その株姿から「Elephant Ears Orchid」(象耳ラン)とも呼ばれている。

⑪ フジバカマ
キク科。関東以西から九州などに分布。秋の七草として知られる。アサギマダラなどのチョウをはじめ、多くの訪花昆虫が花の周囲を優雅に舞う。かつて京都府内では絶滅したと考えられていたが約20年前に西京区大原野で発見された。

⑩ ベニヒモノキ
トウダイグサ科。西インド諸島やマレー半島に分布。枝の上部の葉の付け根から紅色の小さな花が密に集まった長さ20～50cmの花穂を出す。赤い花穂が垂れ下がっている姿が赤いヒモのように見えることから和名が付いた。

⑨ ノゲイトウ
ヒユ科。原種はインドに自生。属名の *Celosia* (セロシヤ) はギリシャ語の「keleos (燃やした)」に由来し、その花が焼けたように赤く乾燥していることによる。園芸品種が多く作り出されており、属名の「セロシヤ」で流通していることが多い。

① オトコエシ
スイカズラ科。北海道から九州、琉球列島、奄美大島、朝鮮半島などに分布。和名の由来は、オミナエシと対比させて付けられたもので、花の色が白く地味で茎や葉はオミナエシより大きく、男性的な感じがするということからきている。

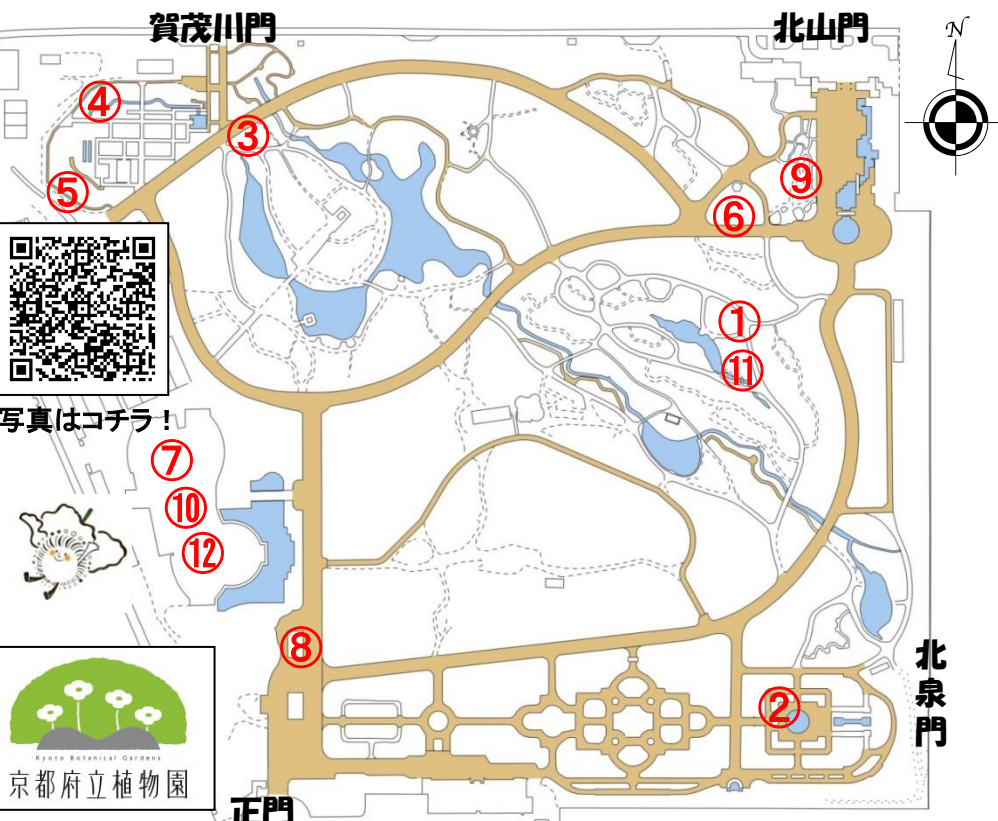
② トウガラシ(観賞用)
ナス科。野生種は中央・南アメリカに分布。日本でよく食用や観賞用に用いられるのはアンヌーム種で、数多くの雑種や園芸品種が生まれており、果実の姿形は球状、円錐状など様々。全米審査会(AAS)での優良品種を展示している。

③ ヒガンバナ
ヒガンバナ科。原産は中国大陸で、日本へは稲作の伝来とともに伝わった。通常花茎の上に6個の花が放射状に付き、それぞれの花弁数は6、雄しべの数も6で、それらすべてが一つのまとまりとなった形状である。よく観察すると面白い。

④ パンパスグラス
イネ科。南アメリカやニュージーランドなどに分布。アルゼンチン中部に広がる大草原「パンパ」で多く見られることからこの名が付いた。洋風の庭に植え込むほか、切り花などとしても利用される。和名では「シログネヨシ」とも呼ばれる。

⑤ スイフヨウ
アオイ科。数少ないフヨウの園芸品種。早朝から咲き始め、朝は純白、昼は桃色、夕方から夜にかけてさらに色が濃くなり紅色に変化する。酔芙蓉の名は、この赤くなる様がお酒を飲んで酔っぱらったように見えることに由来。一日花。

⑥ バクチノキ
バラ科。関東以西の本州、四国、九州、沖縄の暖地に分布。樹皮は灰白色で、絶えず古い樹皮が長さ数10cm程度のうろこ状に剥がれ落ち、黄赤色の幹肌を現す。これを博打(ばくち)に負けて衣を剥がれるのに例えたことが名前の由来。



⑧ パパイヤ
パパイヤ科。熱帯および亜熱帯地域原産。沖縄などでは果物としてよりもむしろ野菜として利用されている。冬の寒さで枯れてしまうため、当園では、秋に種まきを行い、冬はガラス温室で越冬させ、4月下旬以降に花壇に定植している。

⑦ ヘリコニア・ロストラタ
オウムバナ科。南米ペルーと米国ハワイに分布。ロストラタは「くちばし状」の意味。色鮮やかな部分は苞で、花粉を運んでもらうためにハチドリをひきつける色や形に進化した。目立たない黄色の花は苞の中に多数あり順番に開花する。